

【重点取組(案)】Ⅰ. 第2次中長期計画を振り返り、緊急度、重要度を整理し取組む
Ⅱ. 入学者確保に向け一丸で取組む
Ⅲ. システムリプレイスを機に、業務の合理化を進める

評価: ○=順調に進んでいる、△=やや遅れている、×=あまり進んでいない

中長期経営計画		2023年度行動計画項目 * 以下の表内のピンク下地は重点項目を示す								
大項目	小項目	2023年度の実施項目の整理	具体的行動・実施事項	リーダー	主担当会議	年度末の進捗状況	評価	次年度での引き継ぎ取組み		
1. 独自性・優位性ある教育力の向上と内部質保証	(1) 時代と社会の要請に応えるテクノロジスト育成教育の質の向上	1) 教養教育センターの定着・充実(数理・データサイエンス教育、入学前教育を含む)	① 教学マネジメント室と教務委員会が連携した教育の質の向上に向けた取組実施 1) 研究室配属の詳細設計 2) 新カリキュラムの検証 3) 「卒業研究および制作」のルーブリック成果検証および授業全体の振り返り	横山	教学マネジメント室	1) 研究室配属は従来通りで変更なし その他は計画通り実施 ※進級制度を廃止しフェーズゲート制度へ移行	○	特になし		
		2) 内部質保証具体化への取組み(教学IR、学修成果の可視化などを含む)	② 内部質保証を具体化する取組み 1) IRデータ(所見)を活用した修学指導の実施 2) オンデマンド授業のスキルアップ 3) オープンエデュケーションの検証	大垣	教務委員会	1) 計画通り実施 2) 適切な講師が見つからず研修会中止 3) オープンエデュケーション2件公開	○	オープンエデュケーション公表の増加		
		3) 入学前教育の検証・次年度計画 4) 留学生日本語教育の強化	③ 教養教育センターの定着・充実 1) 教養科目の検証 2) 1年Fゼミ外部講師の講義、Fゼミ・基礎ゼミのライティング講座、特別講演会の開催 3) 入学前教育から初年度授業へのつながり強化 4) 社会人向け教育講座 5) 留学生日本教育科目の新設 ④ 教育プログラム「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の認定申請準備	澤本	教養教育センター	1)、2)、4)、5) 計画通り実施 3) 入学前教育WG立上げ、スクーリング実施	○	「留学生就職促進教育プログラム認定制度」申請(7月予定)		
		5) 魅力ある学科、大学院の展開	⑤ 情報メカトロニクス学科のカリキュラムの充実と魅力向上 ⑤-1 新カリキュラムの実施・改善 1) 進行中のカリキュラムを確実に実施する 2) コース配属を実施し、結果を分析する 3) 退職する教員の補充を行う ⑤-2 オープンキャンパスや施設見学で学科の魅力のアピールを強化する取組み 1) 設備や活動の紹介動画の試作 2) 展示物の更新の検討 ⑤-3 学科の情報発信 1) WEBサイト・SNSでの学科の情報発信・情報提供を促進する	原	学科会議	概ね計画通り実施	○	継続推進		
		6) 建設学科の充実と魅力向上 ⑥-1 建設学科新カリキュラムの実施・検証・改善 1) 進行中の新旧のカリキュラムを確実に実施する 2) 新カリキュラムの効果を把握し、コースや科目の在り方を検証する 3) 教員の担当可能分野を調査し、教員補充計画へ反映させる ⑥-2 学科の魅力を向上させる取組み 1) オープンキャンパスの活性化を図る 2) 広報と連携し研究や学生の取り組みなど情報発信を促進する	田尻	学科会議	概ね計画通り実施	○	継続推進			
		7) 大学院ものづくり学研究科の充実と魅力向上(大学院活性化に向けた取組み) 1) 学内進学者を増やすための取組を実施 2) 大学院改組の検討(成長分野対応の検討)	横山	教学マネジメント室	学部の課程移行検討を優先し中断	△	特になし			
		8) 休退学者削減施策	⑧ 休退学者低減 1) 前年度の取組みに加え、進級できなかった学生のフォローを追加 2) 面談対象者特定と指導強化 3) 学生相談体制の再構築の検討	大塚	退学者対策部会	進級制度廃止決定 HRを中心に学生とのコミュニケーションを強化 教職員の傾聴トレーニング実施	△	成績不良者のアフターフォロー継続強化 IRデータ、ポータルサイトへ書き込み分析し効果的対策検討		
		9) 充実した就職支援と学生生活のサポート	1) 留学生、障がい者等、個別の対応強化及び支援制度の充実	⑨ 学生・留学生への支援の充実 1) ふれあいルームと教職員の連携による支援強化(ふれあいルームのカウンセラーと教職員の連携、長期の休み明けのアンケート調査による支援) 2) 障がいのある学生への支援体制の充実(各学科の教員、カウンセラー、事務職員の連携による個別対応) 3) 留学生の月1回の対面式在籍管理により、問題を早期に洗い出し実施(月1度の在籍確認、毎学期ごとのオリエンテーションによる意識向上)	高橋	学生・留学生委員会	悩みのある学生に対しサポート実施	○	長期連休明けなどにアンケート調査を行い、悩みのある学生を把握し、サポート力向上	
		2) 経済支援制度の多様化による学生への支援の充実	⑩ 学生の経済面の支援 1) 新たな修学支援制度の周知と独自奨学金制度の検討(新たな修学支援制度を含む各種奨学金の周知により、より多くの学生の活用促進) 2) 奨学金情報のメールでの周知やホームページへの掲載や地方自治体・団体による奨学金情報を収集し、多くの情報提供を推進(メール、ホームページ、学内掲示などにより学生が触れる機会を拡充)	高橋	学生・留学生委員会 就職・インターンシップ委員会	4) 2024年度新日本語科目授業の単位化を決定 5) 留学生向け勉強会を実施、出席率向上	○	新日本語科目受講および単位修得サポート 留学生対象セミナーと全学生向けセミナーとの関連も含め課題設定等を検討する。		
						高橋	学生・留学生委員会	計画通り推進	○	継続推進
								計画通り推進	○	継続推進

【重点取組(案)】Ⅰ. 第2次中長期計画を振り返り、緊急度、重要度を整理し取組む
Ⅱ. 入学者確保に向け一丸で取組む
Ⅲ. システムリプレイスを機に、業務の合理化を進める

評価: ○=順調に進んでいる、△=やや遅れている、×=あまり進んでいない

中長期経営計画		2023年度行動計画項目 *以下の表内のピンク下地は重点項目を示す						
大項目	小項目	2023年度の実施項目の整理	具体的行動・実施事項	リーダー	主担当会議	年度末の進捗状況	評価	次年度での引き継ぎ取組み
	<p>(3) 志願者の質の確保と安定的定員の確保</p> <p>2023年度の最重点項目</p>	3) キャリア育成の充実による学生のモチベーションと卒業満足度の向上	<p>③キャリア支援の充実</p> <p>1) 社会情勢を把握し、場合により、就職セミナーの講義内容の前倒しも検討</p> <p>2) 就職力強化合宿の再開</p> <p>3) 継続して情報系のインターンシップ先を開拓する</p> <p>4) 動き出しが遅れた学生への対応を強化</p> <p>5) 公用車等を活用した小規模工場見学会などを実施し、就職意識を高める取り組みを検討</p>	高橋	就職・インターンシップ委員会	計画通り推進	○	継続推進
		1) アドミッション・ポリシーの明示と共有	<p>①入試制度改革の推進</p> <p>1) 受験生の多様化等の情勢、受験生の動向、文科省が示す方向性、指導要領の改訂等に対応した入試制度改革(入試内容の変更、新入試の追加、試験日程の検討、学内併願方法の周知など)</p> <p>2) 受験機会の確保、手続きの簡易化、受験に関する優遇措置等、受験生の便宜を図ること、志願者増を企図する施策</p> <p>3) アドミッション・ポリシーに基づき、本学にふさわしい入学者を確保するため、期待する入学者像と志願者がマッチングする独自入試の強化及び周知</p> <p>4) 工業高等専門学校からの編入学の促進(出願資格、試験日程、学費優遇措置等の変更)</p>	高橋	入試委員会 学生募集委員会	1)~4)は計画通り実施したが入学者目標大幅未達が継続	△	年内入試での入学者確保、目標設定 SNSその他の学生募集広報強化
		2) 多様な入学試験の実施、学力の3要素をはじめ多面的な評価の推進	<p>②学生募集対策の充実</p> <p>1) 受験生が直接大学を見る機会・イベントの充実(オープンキャンパス、オープンキャンパスでの体験模擬授業、進学相談会、大学見学会、参加者へのフォロー強化など)</p> <p>2) 学外で受験生に直接説明する機会・イベントの充実(校内説明会、会場ガイダンス、資料頒布会など)</p> <p>3) 非接触の受験生等への周知(業者名簿や模試データを活用した受験生や塾等への広報、DM・WEB・SNS等の活用、交通・新聞等の不特定多数への広報など)</p> <p>4) 女子対策(女子学生スタッフの活用、ガールズノート、実習体験教室、女子スカラシップ入試、女子学生による母校訪問など)</p> <p>5) 留学生対策(日本語学校訪問の充実とフォロー、経済的支援の継続、留学生Webサイトの活用)</p>	高橋	入試委員会 学生募集委員会	1)~5)は計画通り実施したが入学者目標大幅未達が継続	△	オープンキャンパス参加者数及び出願率の向上を図るため、LINEと連携したオープンキャンパスマネジメントシステムを導入し、参加者へのフォロー強化 広報と連携し、オープンキャンパスの魅力向上
		3) 高校生対象イベント、オープンキャンパス等の充実	<p>③高校へのフィードバック、高大連携等の充実</p> <p>1) 高校訪問の充実(オープンキャンパス参加者高校へのフォロー、入試制度の周知、出身学生の状況報告、訪問地域の拡大と集中、本学への理解醸成など)</p> <p>2) 高校教員対象説明会の実施</p> <p>3) 千葉県工業系高大連携推進委員会、埼玉進研情報交換会、彩の国入試協議会等への参加</p> <p>4) 高校生インターンシップ等の受入れ</p> <p>5) 出前授業等への積極的な参加</p>	高橋	入試委員会 学生募集委員会	上期はオープンキャンパスへの誘導に注力。下期は接触した生徒の高校を中心に、出願を促すためのフォローの強化	△	入試課以外の職員にも高校訪問等への協力要請を検討
		4) 出身高校へのフィードバック、高大連携等の充実	<p>④埼玉県内高校と中心とした教育連携強化(結果として安定的な定員確保に寄与する施策を講じる)</p> <p>1) 教育委員会への働きかけ(県内高校への情報提供、校長会や工業部会等の会場誘致、高校教員の研修等の誘致、講演等への協力、教員派遣等による教育連携強化をはじめ、大学認知度向上につながる施策)</p> <p>2) 教育連携協定校の再締結と新規締結</p> <p>3) 協定校への働きかけ(大学見学誘致、探究の時間への協力、部活動・イベント等への協力、講演や出前授業等の働きかけ、オープンキャンパスや大学イベント等への誘導、理系女子への啓蒙活動等)</p> <p>4) 県内高校に限らず、個別に関係性を築いている高校との教育連携継続・強化</p>	大塚	教育連携推進部会	1) 高校等訪問31校の他(県内23校、県外8校)、高校教員研修会への講師派遣等実施、学SAITAMAプロジェクト共催実施 2) 新・再協定締結10校 3) 部活動・イベント支援・生徒講演会への講師派遣等11件	○	・県内外高校と新規協定締結 ・協定校連絡会議の設置、開催と教育連携 ・連携講師連絡会議の開催 ・教育連携プログラムの開発・実施
2. 特色ある研究・社会貢献活動	(1) 産学官金連携した教育・研究	1) 研究活性化とその支援	<p>①産学連携活動方針の見直し</p> <p>1) パートナーシップ型産学連携の推進</p> <p>2) 基礎研究を行う大学・研究機関や競争的資金獲得に注力している機関との連携</p> <p>3) 段階的な産学官連携プロセスの構築</p> <p>②セミナー等の実施やアドバイザーによるブラッシュアップなど年間を通じた学内での科研費獲得のための支援体制の構築</p> <p>1) 科研費アドバイザーによる申請書のブラッシュアップ</p> <p>③職務発明等の円滑な手続き支援及び出願費用予算の継続措置</p> <p>1) 教員への啓発</p>	荒木	もの研運営委員会	①1)提案企業者数は50社超 2)行政・支援機関等への提案先31者、うち具体的な連携先8者を発掘 3)産学交流サロン(仮称)は社会課題解決型産学連携として企画 ②科研費獲得のためのセミナー及びアドバイザー面談により申請件数増加 ③企業との共同出願による申請の増加	○	・社会課題解決型の取組みに注力
		2) 社会人教育プログラムの企画・実施	<p>④社会人教育プログラムの企画・実施と評価を踏まえた次年度の企画検討</p> <p>1) 製造系、建設系、リベラルアーツ系で5講座実施(昨年度1講座)</p> <p>2) 諸団体の媒体(メルマガ等)を活用した告知</p> <p>⑤新たな社会人教育ビジネスの検討</p>	荒木	もの研運営委員会	④DX関連1講座、デザイン関連1講座、建設関連1講座、ドラッカー関連2講座の計5講座開催 ⑤Ster協会等外部機関と連携し、次年度新規3講座を企画	○	・産業界の課題やニーズを反映した講座に注力
	(2) 社会・地域・国際貢献	地域連携方針の見直し	<p>①改革総合支援タイプ3獲得に向けた活動計画立案(2023年度~2024年度)</p> <p>②公開講座、教職員派遣の量的実施計画立案</p> <p>③各種イベントの改善と実施</p>	荒木	地域連携推進・渉外室	①②計画通り実施 ③各種イベントの満足度75~100%	○ △	タイプ3プラットフォーム型の検討継続
		1) ブランド展開、PR効果の高い大学広報の実施	<p>①各種データとファクトに基づいたPRの実施(プレスセンター、プレスリリース、ニュースレター)</p>	荒木	広報委員会	計画推進 プレスセンター20件、リリース4件、ニュースレター47件	△	入試課と連携し学生募集広報に注力

【重点取組(案)】Ⅰ. 第2次中長期計画を振り返り、緊急度、重要度を整理し取組む
Ⅱ. 入学者確保に向け一丸で取組む
Ⅲ. システムリプレイスを機に、業務の合理化を進める

評価: ○=順調に進んでいる、△=やや遅れている、×=あまり進んでいない

中長期経営計画		2023年度行動計画項目 *以下の表内のピンク下地は重点項目を示す						
大項目	小項目	2023年度の実施項目の整理	具体的行動・実施事項	リーダー	主担当会議	年度末の進捗状況	評価	次年度での引き継ぎ取組み
		2)Webサイト、SNS等のデジタルメディアをメインとした広報活動の拡充	②Webサイトの運営と改善 ③SNS運用と改善 ④サイトへの集客施策実施 ⑤WEBサイトのナビゲーションの改善	荒木	広報委員会	②④⑤計画推進 ③X(Twitter)389、Instagram76、Facebook263、TikTok8、Youtube24	△	入試課と連携し学生募集広報に注力
		3)20周年記念寄付事業終了に向けた施策の実施	⑥新規寄付獲得と既寄付者との良好な関係づくり【再掲】	荒木	地域連携推進・渉外室	銘板を「ものづくりベース」入口に設置。記念グッズ、事業報告書を作成し、寄付者に発送	○	特になし
						目標額1億円に対し、寄付金額は26,375,000円(達成度26.4%)	×	特になし
(2)内部質保証、改革を進める組織力向上と人材育成		1)第3次中長期経営計画の策定	①VisionCompass2030及び2022年度大学認証評価結果を踏まえ、第3次中長期経営計画の原案作成、議論、提案	小塚	中長期経営計画部会	①第2次中長期経営計画の振り返り実施、第3次中長期経営計画策定	○	第2次中長期経営計画の振り返りの整理を年十開けに実施する。
		2)システムリプレイスを機会に働き方改革実施	②業務改善の課題を整理し、システムリプレイスに合わせて、改善を検討し、順次計画・推進	小塚	自己点検評価室	②システムリプレイス遅れ、工数不足により業務改善未着手、会議の合理化を実施	△	文書データ整理・移行は継続推進 事務処理合理化のための課題整理推進
		3)SD・FD・FSD等、教職員の人材育成 4)法令改正に伴うガバナンス改革(ガバナンス・コードの更新と周知)	③FSD研修は年間5回、FD研修は年間3回を実施予定。 ④法令改正に伴うガバナンス改革に向け、情報収集を行うとともに、寄附行為はじめ学内規程及びガバナンス・コードの改正準備	大島	FD・SD推進委員会	③④計画通り推進	○	寄附行為の法律改正に向けた変更実施
(3)持続可能な財務力と施設の向上		1)財務健全化に向けた戦略	①寄附者との良好な関係づくり 1)現物寄附の推進を継続する。 ②私立大学等改革総合支援事業タイプ3の獲得に向けた活動計画の立案【再掲】 ③施設貸出を拡大し、使用料収入の確保を図る ④新たな収入源拡大検討 ⑤一般経費支出抑制にかかる財務戦略の立案 1)キャッシュフローの拡大化と赤字額の縮減	大島	経営戦略会議	①②③計画通り推進 ④新たな収入源確保に係る事業実施	△	④継続検討中
				大塚	財務マネジメント室	年度末に向けて支出削減に取り組み	△	継続推進
		2)施設・設備修繕の中長期計画の実行	⑥施設および教育・研究設備の更新・整備戦略・費用の検討、マスタープラン(MP)のブラッシュアップ 補助金獲得および両学科における教育・研究設備の見直し後の施設設備マスタープランのブラッシュアップと予算実績管理の見える化 ⑦学生工房整備WGの新設と2024年度工房整備着手に向けた計画の策定 学生工房整備WGの新設と2024年度工房整備着手に向けた計画の策定 ⑧キャンパス整備計画WGにおけるプロジェクトの実施 1)広場整備計画小WGにおける2023年度実施に向けた計画の策定および一部実施 2)省エネ化計画小WGの新設と2024年度大学施設整備着手に向けた計画の策定 3)防災対策に対応した施設設備やその他の施設設備の整備	三原	施設設備計画部会 学生工房整備WG キャンパス整備計画WG	⑥MP3の見直し、戦略的経費を約1億円減額 ⑦新学生工房「MONO BASE」基本計画作成、着工 ⑧キャンパス整備計画を学長裁量経費に基づき試施工を行った	○	⑥長期修繕管理表、実行計画作成とフォロー ⑦MONO BASE施工実施、運用検討 ⑧広場をクラフトマインドキャンパス思想に基づき施工。太陽光パネルの設置の可否を決定する。
		3)情報システムリプレイス及び環境整備	⑨情報システムの検討(システムスペックの向上と大幅なコストダウン)と実施 1)事務支援システムの移行 2)ネットワークシステムの契約 3)講義室等の音響映像システムの更新を検討	三井	情報環境改革部会	⑨総務・会計系は4月稼働。教務システム、ネットワークの実施は2024年度第3Q	△	システム入替えの完成 音響施設のリニューアル企画・実施
		4)防災・危機管理・法令順守のための体制の整備拡充	⑩危機管理体制整備と強化(水災・感染症・情報セキュリティ等) 1)危機管理マニュアル(情報セキュリティも含む)の見直し 2)地震、水災、火災に関する訓練の企画及び実施 3)救急救命(AED)講習会の企画・実施	大島	危機管理委員会	⑩危機管理マニュアルの見直完了	△	継続推進